

沿岸イカ釣り漁業の経済性定量評価モデルの開発

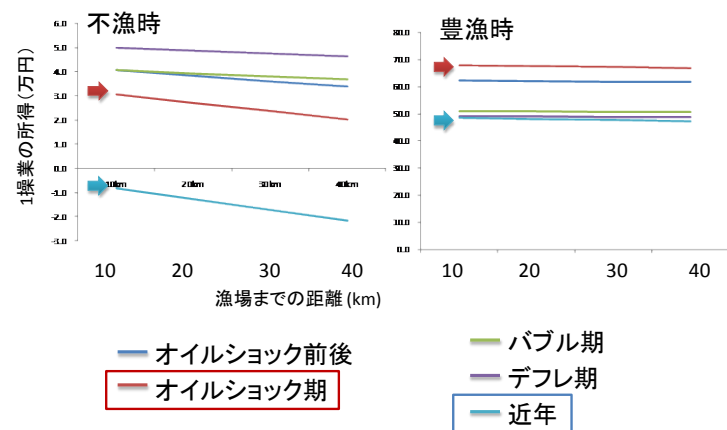
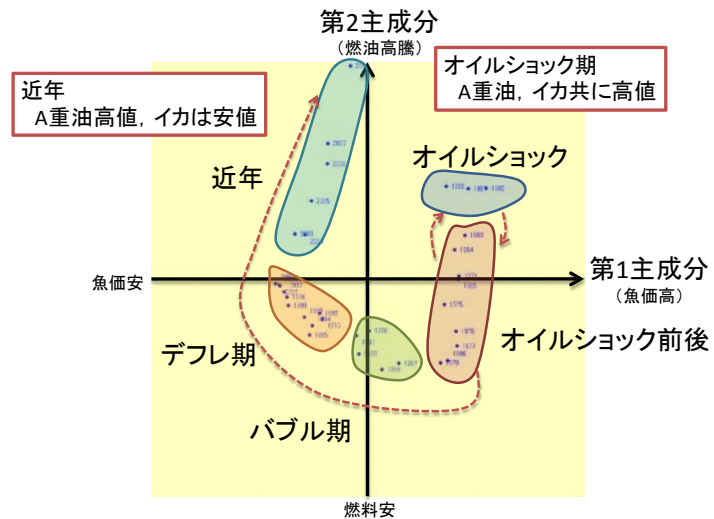
水産業システム研究センター

研究背景・目的

近年、燃油高騰や魚価低迷により沿岸漁業をとりまく社会情勢は非常に悪化しています。特に、遠距離の漁場までの移動と大光量の漁灯を利用する沿岸イカ釣り漁業においては、操業の効率化が急務となっています。しかし、効率的な操業方法というのは燃油単価や魚価といった社会情勢や、漁獲量や漁場までの距離といった操業条件によっても大きく変化するため、経済性を考慮した操業の定量評価モデルの開発が求められています。

研究の成果

本研究により構築した経済性定量評価モデルを用いることで、社会情勢や漁場条件が変化した場合の経済性を定量化することが可能になりました。近年の燃料高騰期と比較されることの多い第2次オイルショック期では、燃油は高騰しているものの魚価が非常に高水準であったため、豊漁時には他の時期と比較しても儲けが多かったということが分かりました。反対に、近年の高騰期は不漁豊漁に関わらず他の時期と比べて儲けが少なくなっていることが分かりました。



波及効果

沿岸イカ釣り漁業の経済性の評価に繋げていきます。

(生産システム開発グループ: 田丸修 エネルギー・生物機能利用技術グループ: 高山剛・柴田玲奈 主幹研究員: 長谷川英一 業務推進部: 渡部俊広)